

多摩大学

Global 大学案内 2017

Local

経営情報学部

【多摩キャンパス】
〒206-0022
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1
TEL: 042-337-1111(代)

グローバルスタディーズ学部

【湘南キャンパス】
〒252-0805
神奈川県藤沢市円行802番地
TEL: 0466-82-4141(代)

大学院 経営情報学研究科

【品川サテライト・多摩キャンパス】
〒108-0075
東京都港区港南2-14-14
品川インターシティフロント5階
TEL: 03-5769-4170(代)

多摩大学が目指すグローバルと何か

多摩のローカリティを究めることにより、
グローバルに目を開く“グローバルティ”という思想を持つ、
多摩地域の活性化をリードするグローバル人材——
すなわち“多摩グローバル人材”を育成します。

■ 多摩大鳥瞰図絵

東京の辺境にある多摩ではなく、日本と世界の中心に多摩を置くと新しい視点が浮かび上がります。羽田空港と横浜港は世界につながるターミナル。日本海の彼方に中国、韓国、北朝鮮、ロシアなどを擁するユーラシア大陸が視野に入ります。鳥の視点で見た鳥瞰図絵から、地域性(ローカリティ)と世界性(グローバリズム)を捉え直すことができます。



INDEX

多摩大学の基本姿勢

- 1 多摩大学が目指すグローバルとは何か 多摩大鳥瞰図絵
- 2 学長メッセージ
- 3 大学教育の改革者として 多摩大学教育史 / 理事長メッセージ
- 4 多摩大学の理念 建学の精神 / 基本理念 / 現代の志望 / 輩出する人材像
- 5 グローカル社会との連携 国際交流 / 地域連携・産学官連携 / 多摩学 / 大なる多摩学会

学びについて

- 7 経営情報学部 学びの体系 / カリキュラム / 教授陣
- 8 グローバルスタディーズ学部 学びの体系 / カリキュラム / 教授陣
- 9 “実学”先進教育アクティブ・ラーニングの多摩大学 セミカの多摩大
- 11 社会で活躍する多摩大生
- 12 多摩大学 大学院 経営情報学研究所 MBAコース / ビジネスデータサイエンスコース
- 13 田村学園概要図 データで見る多摩大学 アクセスマップ

Message

地域と世界を睨んだ 教育機関としての役割を果たす



第五代学長
寺島 実郎

<http://www.tama.ac.jp/terashima/>

1947年北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学専攻修士課程修了後、三井物産入社。米国三井物産ワシントン事務所長、三井物産常務執行役員、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授等を歴任し、現在、(一財)日本総合研究所 会長、文部科学省 日中韓大学間交流・連携推進会議委員、同省 グローバル人材育成推進事業プログラム委員会委員、同省 大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会委員、経済産業省 資源エネルギー庁総合資源エネルギー調査会総合部会委員、国土交通省 首都圏広域地方計画有識者懇談会委員等兼任。1994年石橋湛山賞受賞。2010年4月早稲田大学名誉博士学位。

主な著書は、「二十世紀と格闘した先人たち—一九〇〇年アジア・アメリカの興隆」(新潮社)、「新・観光立国論—モノづくり国家を超えて」(NHK出版)、「(寺島実郎監修)全47都道府県幸福度ランキング2014年版」(東洋経済新報社)、「何のために働くのか—自分を創る生き方」(文春新書)、他多数。また、『月刊 寺島文庫—ニッポンの立ち位置』(BS-TBS)、『寺島実郎の未来先見塾—時代認識の副読本』(BS11毎週金曜日21:00~21:54)に出演中。

平成元(1989)年に開学した多摩大学は、バブル後の失われた時代、平成という時代と歩みを同じくして歴史を刻んできた大学です。

冷戦が終結し、グローバル化とIT革命が進んでいく相関のなかで、社会状況、経営環境が変化するという問題認識を背景に、時代のニーズに真っ向から立ち向かい、これから起こる問題を解決できる人材、高い志を抱く人材の輩出を目指すなど、大学教育の在り方を示し、教育改革をリードしてきました。

いま、世界は「多極化」という表現では収まらない「全員参加型秩序」に向かって動き始めています。いかなる国や民族も胸を張って自己主張し、自分たちの幸福を希求する全員参加の時代に、これからの日本や世界を担う人材、現場を支える若い知性を育てることに全力を注いでいます。

また、多摩の名を冠する大学として、多摩地域に大学があることに大きな意味があります。キーワードはグローバルティ。世界とつながるグローバリズムと地域を掘り下げるローカリティを連結した造語です。“多摩学”に取り組みながら地域社会に深く根ざした教育機関として、多摩大学はさらに大きな役割を果たすつもりです。2008年から開講し9年目となる学生と社会人を対象とした「リレー講座」は、延べ参加者数が10万人を超え、多くの地域住民が熱心に参画しています。

内向する時代にあって、世界の中の日本を再考し、歴史を背景に時代認識を深化させて地域を考えていく試みは、強い関心を持って社会に受け入れられ、東京西地区の知的インフラとして発展させてまいります。

大学教育の改革者として

多摩大学は「国際性」「学際性」「実索性」という3つの理念のもと開学しました。

従来の米国流資本主義の世界観を見直し、
アジア、ユーラシアを視座に据えた人材育成を行うなど、
産業社会に応えるべく変革を続けています。



【学校法人田村学園理事長】
田村 嘉浩

1961年東京生まれ。東京大学法学部卒業後、1984年通商産業省（現在の経済産業省）に入省。スタンフォード大学アジア太平洋研究所及びモスクワ国際関係大学への留学、海外勤務、地方勤務などを経験。日本社会を覆う停滞感と新興諸国の活力溢れる姿を目の当たりにし、教育、人材育成の重要性を痛感し転職を決意。2003年7月、在ロシア日本国大使館参事官の勤務からの帰国と同時に田村学園常務理事に就任。2004年4月、多摩大学目黒中・高等学校長、2015年4月、田村学園理事長に就任。

田村学園は、「社会の進展に貢献できる自立した有為な人材の育成」を目指し1937年に創設された学園です。当初は女子実業人教育からスタートしましたが、その後の時代の変化の中で順次発展を遂げ、現在では多摩大学・大学院を頂点に男女共学の中高一貫校や幼稚園を備えた一貫教育の体制が整った学園へと変貌を遂げております。

今あらためて、多摩大学のこれまでの歩みを振り返ってみますと、常に様々な改革に挑戦し、大学教育の在り方の理想を徹底して探求してきた姿がはっきりと見て取れます。

現在、我が国を取り巻く国際環境は大きな変動の真ただ中にあります。また、情報技術をはじめ技術革新のスピードも速く、産業社会の変化も大変激しい時代です。こうした中、人材育成に関して大学が果たすべき役割は、従来にも増して大きなものになっています。

本学としては、今後とも「新しい時代に活躍できる人材」の育成を目指して、これまでの大学教育の改革者としての伝統を忘れずに、「教育の場」として更なる進化を続けていけるよう努めて参ります。

キーワードで見る 多摩大学教育史



1989-1995 初代学長期 | 野田 一夫

1995 二代学長期 | 中村 秀一郎

1995-2001 三代学長期 | グレゴリー・クラーク

2001-2008 四代学長期 | 中谷 巖

2009- 五代学長期 | 寺島 実郎

大学史を画した 多摩大学の誕生

- 高い志 — 既存概念を打破する大学構想
- 学生消費者主義に基づく学生満足度の向上
無休講、VOICE(学生による授業評価)制度、コア・タイム(オフィスアワー)、講義終了時の拍手、アドバイザー制度、教授会の土曜開催
- 斬新な「実学」思考の教育内容
ティーチインの開催、「国際性」「学際性」「実索性」を体現したカリキュラム、自己表現の重視、社会経験豊富な教授陣
- 社会に開かれた教育
産学協同への方向性 — 公開寄付講座、コミュニカレッジ、多摩21世紀市民大学、市民教育への取り組み
- ファカルティ・デベロップメントの推進
研究雑誌TIMIS JOURNALの刊行、FRC(教員間の研究論文発表)と授業マネジメント研究会

新たな教育改革運動と 初年度基礎教育

- 新たな教育改革運動と初年度基礎教育
TRAP(初年度基礎教育体系)の導入、経営基礎I、情報基礎I、英語教育(ビジネスシミュレーション)

たくましい学びを求めて

- 相対評価制の導入
- 「第二世代」の教授陣とカリキュラム
- 語学教育とボランティア活動
英語の「暗号解読」授業、ボランティア活動の単位認定
- 基礎教育の発展
経営基礎II、情報基礎II
- 充実する教育環境
国内トップレベルの情報教育環境、SRC(全学的な学生の研究発表会)の開催、キャリア教育、資格取得

日本を語れる グローバル人材を育てる

- 自ら考え、行動する学生に
- 新学科、新学部の創設
- 気づき教育「自己発見」から「多摩大道入門」へ
- イングリッシュ・シャワーと留学生交流
イングリッシュ・シャワー(必修英語プログラム)、T-SAP(多摩大学留学プログラム)、天津財経大学と交換留学制度
- 講義中心大学からゼミ中心大学へ
成果あがるゼミ活動

現代の志塾

- 多摩グローバル人材の育成へ
- アジアユーラシアダイナミズム
- 寺島実郎監修リレー講座「現代世界解析講座」
- インターゼミ「社会学研究会」
- 多摩学
- セミカの深化へ — 「ゼミカの多摩大」として
- アクティブ・ラーニングの先進大学
- 大いなる多摩学会 設立

多摩大学教育史 <http://www.tama.ac.jp/guide/history/>

1987年 12月	多摩大学教学センター開設		
1988年 4月	多摩大学設置準備会開設		
1988年 10月	多摩大学開学センター開設		
1989年 4月	東京都多摩市に多摩大学を設置(設置者 学校法人田村学園)		
	野田一夫初代学長就任		
	年間講義案導入		
	アドバイザー制度開始		
	コア・タイム実施		
	多摩大学総合研究所開設		
1990年 9月	TIMIS JOURNAL 創刊		
1990年 3月	第1回ティーチイン		
1990年 4月	退学勧告		
1990年 10月	第1回コミュニカレッジ実施		
1990年 12月	第1回VOICE実施		
1991年 4月	経営情報学部入学定員160名より320名に増加		
1992年 5月~7月	レジャー産業論をはじめ5つの公開寄付講座を 新宿京王プラザホテルで開講		
	天津財経大学と学術協定を締結		
1993年 4月	大学院経営情報学研究科修士課程設置		
	多摩21世紀市民大学開講		
1994年 3月	第1回FRC(Faculty Research Conference)開催		
1995年 4月	中村秀一郎二代学長就任		
	9月	TRAP(TAMA REENGINEERING ACTION PROGRAM)に基づく 経営基礎-情報基礎の授業開始	
1996年 4月	大学院経営情報学研究科博士課程設置		
1997年 4月	暗号解読法による英語教育開始		
	3月	多摩大学紀要発刊	
1998年	第1回SRC(Student Research Conference)開催		
2001年 9月	中谷巖四代学長就任		
2002年 10月	渋谷マークシティ WEST117階にルネサンスセンター開設		
2002年 4月	自己発見開講		
	7月	稲城市教育委員会と教育協定締結	
2003年 4月	T-SAP(Tama University Study Abroad Program)開始		
2004年 1月	品川インターシティA棟27階にルネサンスセンター移転		
	4月	品川インターシティA棟27階に品川キャンパス開設	
	4月	情報社会学研究所開設	
	4月	大学院3コース制へ(MBA、CLO、CROコース)	
2005年 1月	統合リスクマネジメント研究所開設		
2006年 2月	ロジステクス経営・戦略研究所開設		
	4月	経営情報学部マネジメントデザイン学科新設	
		大学院5ドメインによる新カリキュラムスタート	

2007年 4月	グローバルスタディーズ学部新設
2008年 4月	多摩大学湘南キャンパス開設(神奈川県藤沢市)
	野田一夫学長代行就任
	知識リーダーシップ総合研究所開設
	特別講座(寺島実郎監修リレー講座)開講
2009年 4月	寺島実郎第五代学長就任
	九段サテライトを開設
	インターゼミ(社会学研究会)開講
10月	湘南キャンパス内に国際交流センター開設
	多摩キャンパス内に地域活性化 マネジメントセンター開設
2010年 2月	第1回多摩大学地域プロジェクト発表祭
3月	多摩大学ルネサンスセンター閉鎖
	多摩大学ロジステクス経営・戦略研究所閉鎖
10月	多摩大学・多摩市・多摩信用金庫の三者による 事業連携推進協議会発足
2011年 4月	八王子サテライトを開設
2013年 3月	知識リーダーシップ研究所を閉鎖
	統合リスクマネジメント研究所を 医療・介護ソリューション研究所へ改組
2014年 9月	多摩キャンパス新ファシリティー(T-Studio)竣工
2015年 4月	経営情報学部マネジメントデザイン学科を 経営情報学部マネジメントデザイン学科新設
2016年 6月	ルール形成戦略研究所開設
7月	大いなる多摩学会設立

T-Studio (T-スタジオ)



1階：セブンイレブン 多摩大学店
2階：インターネット放送局スタジオ、ゼミ、サークルの活動や公開講座などに使用できるフリーレイアウトスペース
開学25周年を記念して建設(2014年)。学生アメニティに加え地域情報発信の拠点として活用されています。

多摩大学の理念

建学の精神

田村学園は、昭和12(1937)年10月に田村国雄が建学の精神「質実清楚・明朗進取・感謝奉仕」を礎として目黒区下目黒の地に社会に貢献できる女子実業人を養成することを目的として「目黒商業女学校」を設立し、幼稚園及び系列の短期大学と共に女子教育を行ってきました。その後の教育体制を整えるため、高等教育としては、平成元(1989)年に多摩大学(以下「本学」という)を設置し、中等教育は進学ニーズに合わせて男女共学の中高一貫教育への改組等を行い、現在では、多摩大学・大学院、多摩大学目

黒中学校・高等学校、多摩大学附属聖ヶ丘中学・高等学校、目黒幼稚園・大森双葉幼稚園・三宿さくら幼稚園まで、大学・大学院を頂点として幼稚園、中学校・高等学校・大学・大学院の一貫教育としての体制が整っています。本学園は、その目的を「豊かな個性を伸ばし、新しい時代に活躍できる人材を育成すること」と寄附行為第3条で規定し、国際感覚ある、心豊かな人材の育成を目指すことを明記しています。

大学の基本理念

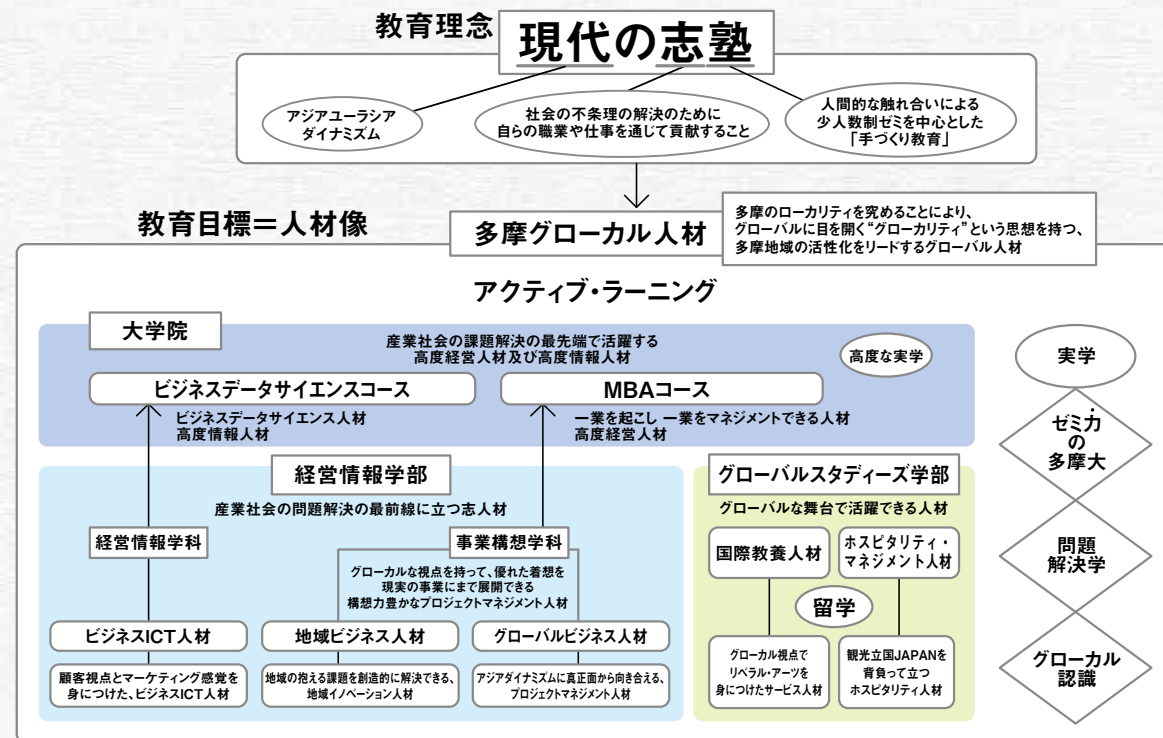
建学の精神・学園の目的を踏まえ、平成元(1989)年大学開学時に本学の基本理念を「国際性」、「学際性」、「実用性」の3つのキーワードとしました。そして、国際化、情報化社会の進展に即応して、世界の中で大きな役割を担い、日本の将来を背負うという自覚に基づいた強い実行力と広い視野を持ち自らを厳しく律することができる高い倫理観のある人材を育成することに尽力してきています。

現代の志塾

本学は、基本理念に従い開学以来「実学」を標榜し、時代の最先端を走る産業界で活躍した人材を教壇へ多数登用する等、「実学教育」を一貫して実践してきた。開学20周年の平成21(2009)年を機に、この「実学教育」をさらに深化させるため、新しい時代の実学を「今を生きる時代についての認識を深め、課題解決能力を高めること」と再定義し、本学の教育理念を「現代の志塾」と定め、教育・研究・社会貢献の全分野の共通理念とした。

多摩大学が輩出する人材像

本学は「今を生きる時代についての認識を深め、課題解決能力を高める」ため、教育理念を「現代の志塾」と定め、教育・研究・社会貢献の全分野の共通理念としています。「現代の志塾」とは「アジアユーラシアダイナミズム」の「現代」、社会の不条理の解決のために自らの職業や仕事を通じて貢献をする「志」、人間的な触れ合いによる少人数制ゼミを中心とした「手づくり教育」の「塾」を意味しています。実社会の問題解決の最前線に立つ「志」人材の育成に尽力するため、個性と特色にあふれた「ゼミカの多摩大」を形成しています。



グローバル社会との連携

多様性と柔軟性を持った人材を育成するために、リアルなグローバル体験とグローバルの中でローカルを知る学びを実践しています。

国際交流

世界から日本を見ることで、国際社会で果たすべき日本の役割が見えてきます。提携する大学や海外企業のインターンシッププログラムにより、リアルなグローバル社会を体験します。



国際交流センター

基本理念のひとつである「国際性」をさらに充実させ、グローバルに通用する大学を目指して、平成21(2009)年に設置しました。主な業務は、本学で学ぶ留学生の受け入れの促進、本学学生の海外留学促進、教職員の海外提携大学または機関との交流の3つです。多くの多摩大学生が、長期、短期の留学・インターンシップを通して世界を知り、グローバル社会で生きる力を身につけています。

地域連携・産学官連携

学生が社会で実践できる問題解決能力を養える場として、地域活性化マネジメントセンターを核に、地域や企業と連携したプロジェクトに取り組んでいます。

地域活性化マネジメントセンター



地域の問題・課題を診断し、その解決を図り、地域の持続的発展に寄与する人材育成と、地域連携・地域貢献を目的とした、教員・学生のセンターです。主に(1)地域活性化マネジメント履修モデルの登録学生・教員への支援サービス (2)多摩地域の課題解決の手法開発(「多摩学」の構築) (3)企業や自治体・市民団体等と様々な地域連携を行うための窓口の3つの業務を行っています。

産学官連携

- 学生の居住促進による地域活性化等の推進に係る連携(多摩市/独立行政法人都市再生機構)
- 創業支援事業に関する連携協定書(多摩市/多摩信用金庫)
- 少子高齢社会における多摩市の健康に関する調査研究(多摩市/株式会社ファンケルヘルスサイエンス)
- 観光連携等協力協定(藤沢市/藤沢市観光協会)

寺島実郎学長自ら実践する最先端教育

「寺島実郎監修リレー講座『現代世界解析講座』」



世界各地の現況、海外から見た日本、国内の諸問題を、グローバル、ローカル、あるいは産学官と多角的な視点から取り上げることで、現代社会が抱えている問題意識を提起し、時代認識を深めます。寺島実郎学長監修により講師を招き、学生と多くの地域住民の方が受講しています。

多摩学

グローバルのなかでのローカルの立ち位置として、本学では多摩地域を「三多摩」地域に限定することなく、多摩川流域と相模川流域を挟んだ圏域を対象として地歴的特性を重視した研究を深め、教育・研究・地域貢献に活かすプログラムを一体的に開発し、その分野の先駆的役割を確立することを目標としています。

多摩学電子新書

多摩の来歴を探り、多摩の現代について考え、多摩という視点から未来を構想する多摩学。多摩学電子新書には、教職員、学生を中心とした多摩学の成果をホームページにて掲載しています。



大いなる多摩学会

多摩という人口減少問題の最先端地域で、新たな社会の枠組みを提案し実現する一すなわち、大いなる多摩の実現に取り組むことを目的に、従来の枠組みに囚われない研究プロジェクト群を立ち上げました。多摩大学は、名実ともに「多摩」に基盤を置く大学として、地域企業、市町村と連携し「大いなる多摩」の創造を目指します。



“大いなる多摩” シーズ集

“大いなる多摩”の創造を目指すために、多摩大学教員によるシーズ集を発刊いたしました。

経営情報学部の志

産業社会の問題解決の最前線に立つ志人材を育てる

グローバル化、少子高齢化など、日本はこれまで経験したことのない時代を迎え、企業が抱える課題には、経験則や成功体験が活かせなくなっており、問題を発見し解決できる人材が求められています。

本学部は「産業社会に存在する多様な問題解決の最前線に立つ志人材を育てる」を理念に掲げ、教育カリキュラムを再編。2014年度から新カリキュラム体制(産業社会論・問題解決学・最前線事例)に移行し、具体的教育成果につなげています。

教授陣の多くは企業出身者で、マーケティング、ビジネス戦略、財務会計、ICT、グローバルビジネス、Webデザイン、リサーチなど、さまざまな手段を駆使する最先端で実践的な「問題解決学」を教えることができます。

カリキュラムはゼミ中心に構成され、アクティブ・ラーニング(少人数、グループワーク、フィールドワーク)を多く取り入れた双方向型・参加型の授業を行っています。

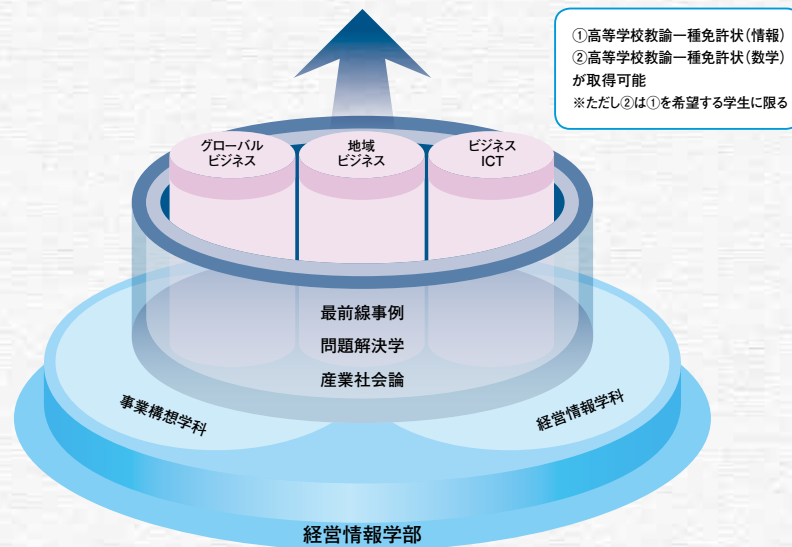
副学長
経営情報学部 学部長



久恒 啓一

九州大学法学部卒業後、日本航空株式会社入社。広報課長、サービス委員会事務局次長などを歴任後、1997年に新設された宮城大学教授(事業構想学部)に就任。以降、活発な著作活動を展開する。著書は100冊を超える。2008年より本学教授、2012年より経営情報学部長、2015年より副学長に就任。

産業社会の問題解決の最前線に立つ志人材へ



①高等学校教諭一種免許状(情報)
②高等学校教諭一種免許状(数学)が取得可能
※ただし②は①を希望する学生に限る

【教授陣】

寺島 実郎 久恒 啓一

事業構想学科

飯田 健雄 杉田 文章
石川 晴子 趙 佑鎮
梅澤 佳子 常見 耕平
大森 映子 中澤 弥
奥山 雅之 中庭 光彦
栢原 伸也 中村 その子
金子 邦博 巴特爾(バートル)
金 美徳 浜田 正幸
小林 英夫 樋口 裕一
椎木 哲太郎 松本 祐一
下井 直毅 村山 貞幸

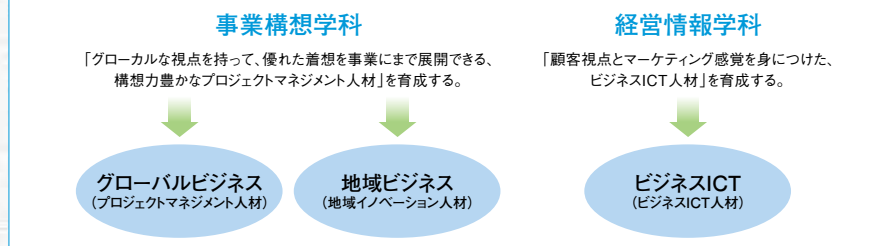
経営情報学科

出原 至道 酒井 麻衣子
今泉 忠 佐藤 洋行
大森 拓哉 志賀 敏宏
清松 敏雄 中村 有一
久保田 貴文 増田 浩通
齋藤 S. 裕美 良峯 徳和
彩藤 ひろみ

経営情報学部のカリキュラム体系

- 産業社会論
産業社会の問題の分析・解決策の策定・実践に役立つ考え方や知識を広く学ぶことができるカリキュラムです。
- 問題解決学
知識を断片的に教えるのではなく、どのような知識や手法が、どのような問題解決に必要なものかを身につけます。すべての科目を問題解決学のひとつの方法論として展開します。
- 最前線事例
少人数による双方向のゼミナール形式の学び。産業社会や地域社会が抱えるさまざまな問題を取り上げ、解決策を提案・実施する実践力を養う実学教育プログラム。プレゼミ、ホームゼミ、プロジェクトゼミ、インターゼミの4つのゼミとして展開しています。

自身の興味や目標に合わせて選択できる2つの学科・3つの履修モデルを設置



グローバルスタディーズ学部の志

グローバルな舞台で活躍できる人材を育成

近年、金融危機、地球環境問題、感染症対策などに見られるように、ひとつの国、地域で起きたことが、一瞬のうちに世界規模の問題になり、その解決には国を越えた取り組みが必要となります。またアニメやゲームなどの日本発の文化も世界に広がり、観光や旅行など人の移動がますます活発になり、それらを支えるホスピタリティ産業も発展しています。

しかし、このような展開は、グローバルな問題を引き起こす原因の

ひとつになっており、その対応や展開、課題の解決に日本の将来がかかっているのです。

グローバルスタディーズ学部が目指すところは「グローバルな舞台で活躍できる人材を育成」することです。これからは、自分の考えや思いを伝え、相手を理解するためのコミュニケーション力が求められています。本学部は学生個々の志を大切に、世界に通用する知性と問題解決能力を持つ人材を育てます。

グローバルスタディーズ学部
学部長

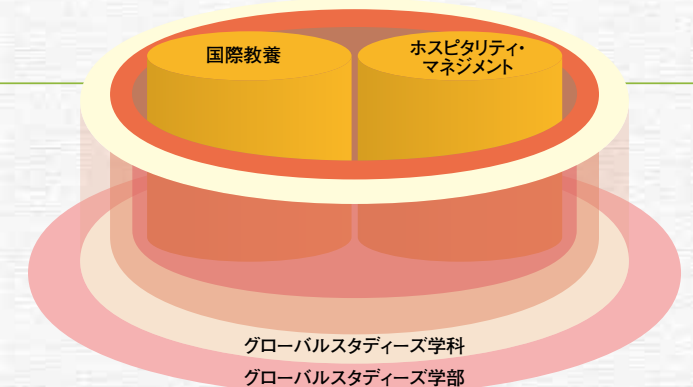


ウィリアム シヤング
安田 震一

ラバーン大学(アメリカ)にて国際学および政治学を学び、コロンビア大学大学院在籍中に北京大学に留学し国際政治の研究を深めた。東京大学大学院地域文化研究専攻にて修士号および博士号を取得。香港大学アジア研究センター、岡山県吉備国際大学、東京大学国際ジャーナリズム寄付講座にて特任講師を経て現職。画像資料を用いた18-19世紀東西文化交流史を研究。

グローバル社会に必要な「英語コミュニケーション力」と「問題解決力」を養成

- 基礎教育科目
グローバルな舞台では、国や地域によって文化や価値観が異なります。基礎教育科目では、このような多様な視点や考え方を学ぶことで、相違点だけでなく人間同士の共通点についても理解を深めます。環境や経済といった、地球全体で解決に取り組むべき課題について学びます。
- 英語集中教育(AEP)
1年次から2年次にかけて行われる英語集中教育が、AEPです。これは、本学部での専門分野の学びに必要な不可欠な英語力を習得するプログラムです。国際ビジネスの現場で通用する英語力を身につけるために、多様なもの見方に触れ、考えを深め、異なる文化で育った人に、自分の意見や意志を伝えられるようになることを目指します。
AEP: Academic English Program



中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)が取得可能
(2015年度より教職課程のカリキュラム設置)

【教授陣】

ウィリアム シヤング(安田震一)
アイグル クルナザロバ
エドワード マクシェイン
エリック ホノベ
太田 哲
大場 智美
金本 佐紀子
小松 加代子
杉下 かおり
高橋 順子
竹内 一真
田中 孝枝
張 琪
テレンス アンドリュー ジョイス
堂下 恵
西井 賢太郎
橋詰 博樹
ブライアン ジェイ イングリッシュ
ポール マーサー
マーク ネイサン ザイオン
渡邊 泰典

幅広い選択肢を用意するグローバルスタディーズ学部

グローバルに活躍できる人材育成を目指す本学部は、海外だけに目を向けているのではありません。国内にある企業でも、海外との関係を深めている企業は急速に増えています。そうした企業に貢献できる人材を育成することも、本学部の大切な使命のひとつです。

将来の進路を視野に入れた「2つのコース」(2年次より選択)

- 国際教養コース
ビジネス・国際関係分野など、あらゆるグローバルな舞台で活躍できる人材の育成を目指します。世界の多様な価値観や考えだけでなく自国の文化や歴史に対する理解を深め、幅広い教養を身につけます。同時に、グローバルな問題の解決に必要な英語コミュニケーション力も習得します。
- ホスピタリティ・マネジメントコース
観光・レジャー・ホスピタリティ分野の職業人育成に特化したコースです。国際色豊かで、ホスピタリティ産業における実務経験の豊富な教員が、ホスピタリティのスキルとマインドを徹底指導。ホスピタリティを深く理解し、さらに実践する力を習得します。

“実学”先進教育 アクティブ・ラーニングの多摩大学

多摩大学は、開学当初よりアクティブ・ラーニングを実践してきた大学です。

多摩大学の実学教育は、問題解決学であり、

ゼミで培ったさまざまなアクティブ・ラーニングの教育手法を講義でも展開し、学生の学びを支援してきました。

この支援を加速するために、2016年度より新たに「アクティブ・ラーニング支援センター」を開設し、

良質な体験型講義「アクティブ・ラーニング プログラム」を多く配置するとともに、

多用なシチュエーションに対応した学修施設を用意し、学生にとって馴染みやすく快適に

自習・コミュニケーション、グループワークができる環境を提供しています。

アクティブ・ラーニング プログラム例

■グローバル研究

アジアダイナミズム研修 ～済州平和フォーラム～
多摩大学・広東財経大学「共通科目」国際交流プログラム

■地域研究

地方再生塾 ～雇用安心循環モデルの提案～
多摩再生プロジェクト ～多摩ニュータウン再生に向けた新たな活性化策の研究～
メディア実践論 ～メディアをつくる・大学情報発信をめざして～
小豆島地域課題解決型アクティブ・ラーニングプログラム

■ICT

ビジネスデータサイエンス人材育成塾
スポーツを通じてデータ分析を学ぶ
アプリ開発 ～Webを活用して～

■知識・教養

AEP(アカデミック・イングリッシュ・プログラム)英語集中教育
日本伝統文化体験プログラム
立体世界史 ～江戸時代の長崎と三浦按針・鎖国と貿易～
藤沢のインバウンド観光の現状と地域振興ポスト ～東京五輪を見据えて～
地震発生後の対応について ～時間の経過により変化する問題の解決、次の防災に向けて～

■企業研究

地域中堅企業研究(島根、広島) ※
地域中堅企業研究(岐阜)
多摩“志”企業探検 ～中堅・中小企業の魅力と可能性を探る～

※多摩大学×帝塚山大学と共同開発したアクティブ・ラーニング教育プログラムです。

■キャリア

志プロジェクト
女性としてのキャリア形成向上プロジェクト
環境問題とビジネス創造 ～環境問題を考えて、ビジネスコンテストにでよう！～
事業構想入門講座 (Zero to One)
「シェアリング」ビジネスの現場を見て自分を考える ～自己プレゼン術を学ぶ～
地域の歴史と偉人から学ぶ問題解決のための理論
グローバルビジネスパーソンと一緒に考える“考力塾”
知的プロフェッショナル入門 ～アクティブ・ラーニングで質問力を鍛える～
競技スポーツをめぐるマネジメント活動研究

■資格

AKINAI塾 ～経営学検定受検及び経営実践力強化～
AKINAI塾 ～簿記、販売士検定受検及び経営実践力強化～



学生が、各国の大使館より観光パンフレットを集めて、文化の違いをディスカッションしている授業の様子



「ラーニングスペース」、「ディスカッションスペース」、「ディスカッションテーブル」等を使用して授業している様子



「山を通して日本文化を学ぶ」をテーマに、出羽三山にて実施された地域系アクティブ・ラーニング

ゼミカの多摩大

ゼミを重視し、1年次から4年次まで開設しています。最前線の事例を取り込むことで、問題を発見し解決する能力を養い、社会の問題解決の最前線に立つ人材を育てます。

[プレゼミ]

対象：経営情報学部1年次



プレゼミでは講義を聞くだけではなく、議論、発表といった能動的な学習を重視しています。新入生にゼミの学習方法を理解してもらうための導入教育です。

[ホームゼミ]

対象：経営情報学部2～4年次



関心あるテーマを選択し、3年間かけて研究を深める専門ゼミです。その分野の専門家である教員が、卒業後のキャリア支援を含めた指導とアドバイスをを行います。

[プロジェクトゼミ]

対象：経営情報学部1～4年次



さまざまな学年と専門性を持った教員が、半期または1年間かけてひとつのプロジェクトに取り組みます。社会で活躍する講師による実践的なゼミを通じて、総合的な問題解決能力を身につけます。

[ゼミナール]

対象：グローバルスタディーズ学部3～4年次



2016年度より、3～4年次生対象に、長期的に同一テーマで学ぶゼミナールを実施しています。

[インターゼミ(社会工学研究会)]

対象：両学部1～4年次および大学院生



寺島実部学長が自ら塾長として主宰し、九段サテライトで開講している全学横断型のゼミです。両学部生と大学院生が参画し、テーマ毎のチームにより文献研究とフィールドワークで課題を解決しながらチーム論文に集約します。

経営情報学部 平成28(2016)年度 ホームゼミナール

教員	ゼミタイトル	教員	ゼミタイトル	教員	ゼミタイトル
飯田 健雄	ビジネス英語でのコミュニケーションスキルの獲得育成塾	久保田 貴文	ビッグデータ活用データサイエンス塾	中澤 弥	メディア論
石川 晴子	英語・コミュニケーション・社会活動	齋藤 S. 裕美	情報社会における倫理研究塾	中庭 光彦	地域政策・観光まちづくり研究室(地域政策プランナー養成塾)
出原 至道	日常生活を拡張する情報技術・新しい情報技術を自力で身につけ、独自の視点で課題解決に応用する	彩藤 ひろみ	CG, イラスト, アニメーション, キャラクターデザインから都市計画まで、デジタルクリエイション塾	中村 その子	広告・広報・ラジオ番組制作・イベント企画を主とした組織PR・マーケティングコミュニケーション
今泉 忠	データサイエンスによる未来の行動予測	酒井 麻衣子	ビジネスの最前線で活躍するマーケティングデータ分析	中村 有一	情報技術で未来を創造
梅澤 佳子	みんなが学び、活動する全員参加のコミュニティデザイン塾	佐藤 洋行	一企業との共同研究プロジェクトで実践的に学ぶ	巴特余(バートル)	日本とアジアの架け橋になる次世代ビジネスリーダー養成塾
大森 映子	歴史から現代社会を見直す	椎木 哲太郎	デジタルマーケティングのデータサイエンス塾	浜田 正幸	組織マネジメント志塾
大森 拓哉	人間行動・心理の情報分析	志賀 敏宏	社会経済と歴史を通して、ライフデザインと問題解決能力を追究する	樋口 裕一	多摩地区に、そして日本に、クラシック音楽を広める
奥山 雅之	中小企業・地域産業活性化研究・実践塾	下井 直毅	〈創新〉イノベーション塾—スポーツ・ビジネス・観光等のマーケティング・戦略に創る	久恒 啓一	図解思考塾
栢原 伸也	企業の成長と衰退を考える塾	杉田 文章	経済特訓塾—日本経済と世界経済を学ぶ	増田 浩通	エージェントベースモデルと社会シミュレーション
金子 邦博	「儲ける」ことを科学する会計を学ぶ	趙 佑鎮	スポーツやレジャーを通じた豊かな社会づくりを構想する	松本 祐一	ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスの事業開発
金 美徳	経営・起業塾	常見 耕平	複眼的視点と歴史観の両面—マーケティング・流通・ベンチャー経営—	村山 貞幸	イベントの企画・運営を通じて、ビジネスのプロフェッショナルを目指す！社会人基礎力を徹底強化塾！
小林 英夫	組織行動と企業家精神を学び、真摯さを身に付ける塾	豊田 裕貴	「論語」を読む。	良峯 徳和	エンターテインメントを脳科学する
清松 敏雄	会計と経営分析		マーケティング、特に消費者行動とブランドマネジメントをテーマに研究		

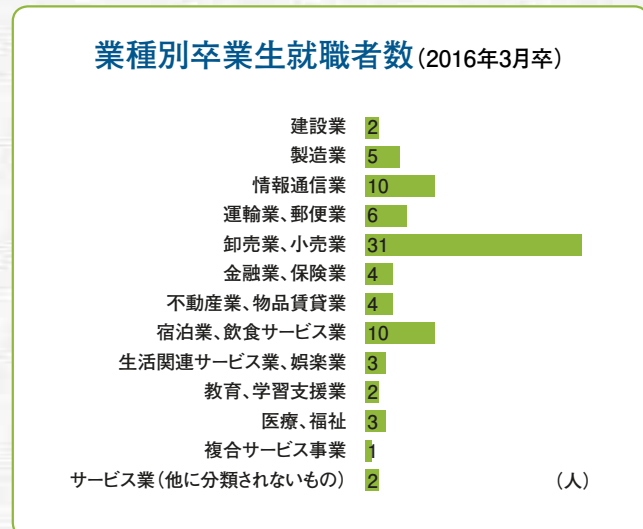
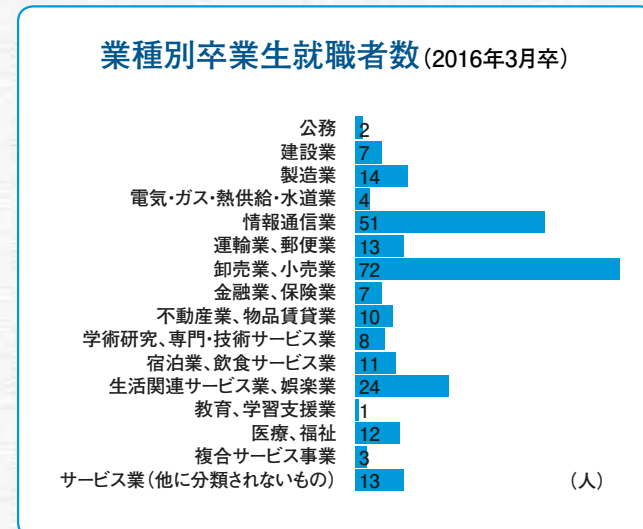
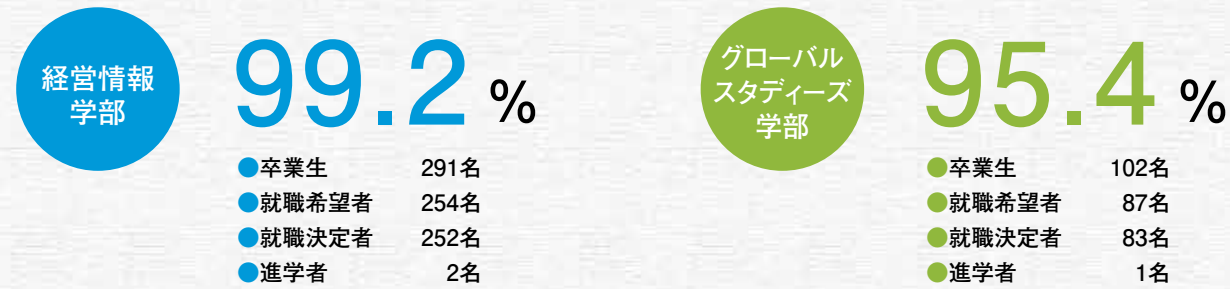
グローバルスタディーズ学部 平成28(2016)年度 ゼミナール

教員	ゼミタイトル	教員	ゼミタイトル
太田 哲	“周辺地域”に住む人々からの視点:インド東北部ナガー族の研究	堂下 恵	観光を通じた国際・地域貢献
小松 加代子	日本人の宗教性: 霊、死後の世界、魂を考える	橋本 博樹	ディベートで今日の社会を考える塾
高橋 順子	翻訳を通して学ぶ言語文化	渡邊 泰典	統計的意思決定とゲーム理論
田中 孝枝	地域の多文化共生追求塾	西井 賢太郎	総合英語
張 琪	エンターテインメントを脳科学にする		

社会で活躍する多摩大生

ゼミ教育を中心としたアクティブ・ラーニングを実践し、グローバルに活躍できる人材を多数輩出しています。高い志を持った卒業生が本学での学びを生かし、社会の問題解決に挑戦しています。

多摩大学 就職決定率 (2016年3月卒業生)



- ### 主な就職先
- | | | |
|--------------------|--------------------------|-----------------------|
| (株)アクシアルリテイリング | (株)クリエイティブレストラン・ホールディングス | (株)トムス・エンタテインメント |
| (株)アクロホールディングス | 警視庁 | トラコム(株) |
| アドセラー(株) | (株)ゲオホールディングス | (株)トラストテック |
| (株)アドックインターナショナル | コーナン商事(株) | トランスコスモス(株) |
| (株)アンビジョン | 国際ソフトウェア(株) | (株)トリノール |
| (株)インフォメーションテクノロジー | 沢井製薬(株) | (株)日本ハウスホールディングス |
| (株)エイチ・アイ・エス | さわやか信用金庫 | 日本郵便(株) |
| (株)エコス | ジェイコム(株) | (株)パル |
| オーケー(株) | 自衛隊 | (株)ファミリーマート |
| (株)大塚家具 | ジェイフィルム(株) | (株)ファンケル |
| (株)大塚商会 | ソフトバンク(株) | (株)フォーバル |
| 岡三証券(株) | 多摩信用金庫 | (株)富士通ソシアルサイエンスラボラトリー |
| 沖ウイングテック(株) | 中部瓦斯(株) | (株)ベストランス |
| (株)オザム | (株)ツルハ | (株)マイナビ |
| かながわ信用金庫 | ディップ(株) | 明治安田生命保険 |
| (株)環境設備エヌ・エス・イー | (株)電通アドギア | (株)リフレックス |
| 菊水化学工業(株) | (株)TOKAIホールディングス | (株)レイズインターナショナル |
| 協栄産業(株) | (株)ドックウェルビーエムエス | わらべや日洋(株) |
| (株)共立メンテナンス | トナミ運輸(株) | 日本瓦斯(株) |

- ### 主な就職先
- | | | |
|--------------------------|------------------|-----------------------|
| アーバン・コーポレーション(株) | (株)クレディセゾン | 東電用地(株) |
| (株)INE | 京王プラザホテル(株) | 東和電気(株) |
| (株)アドックインターナショナル | (株)ケーウェイズ | トップ産業(株) |
| ANAエアポートサービス(株) | (株)光電社 | 日本コンピュータダイナミクス(株) |
| アパホテル(株) | (株)JALスカイ | 日本郵政(株) |
| アリアケジャパン(株) | シャングリラ東京 | (株)ヌーヴ・エイ |
| (株)伊東園ホテルズ | 新生ホームサービス(株) | (株)ピー・アンド・イー・ディレクションズ |
| (株)エービーシー・マート | ストラック(株) | (株)ピーアンドエム |
| (株)大塚商会 | (株)そごう・西武 | ヒルトン東京お台場 |
| 一般社団法人聴岐の島町観光協会 | 第一生命保険(株) | (株)フォーナインズ |
| (株)小田急リゾート | 大洋印刷(株) | (株)プライツコンサルティング |
| (株)オン・ザ・プラネット | (株)大和システムクリエイティブ | (株)ボーネンド |
| (株)カクヤス | (株)多摩川電子 | (株)丸の内ホテル |
| かながわ信用金庫 | ディップ(株) | 学校法人丸山学園 |
| (株)かねまつ | テルウェル東日本(株) | 社会福祉法人横浜共生会 |
| (株)ガリバーインターナショナル | (株)トイカード | 楽天(株) |
| (株)レインズインターナショナル | (株)東急コミュニティー | (株)レイシャス |
| クラランス(株) | 東急ステイサービス(株) | (株)ワークスアプリケーションズ |
| (株)クリエイティブレストラン・ホールディングス | 東京コンピュータサービス(株) | (株)和光ケミカル |

育て、次代を担うイノベーターたち

MBAコース

多摩大学大学院は、産業社会の課題解決の最先端で活躍する高度経営人材の育成を目指すMBAコースとして、課題解決の実践的ツールを学ぶ「実践知考具」のカリキュラム群と、最先端のビジネスシーンでのイノベーション事例を学ぶ「最新ビジネス実践知」のカリキュラム群および時代を見抜く目を養う「教養基盤」のカリキュラム群とで、カリキュラムを編成し、立体的な学びを目指します。



研究科長・教授
徳岡 晃一郎
東京大学教養学部国際関係論卒。日産自動車人事部、欧州日産を経て、2009年よりコミュニケーションコンサルティングでは世界最大手の米フライシュマン・ヒラードの日本法人のSVP/パートナー。人事制度、風土改革、社内コミュニケーション、レピュテーションマネジメント、リーダーシップ開発などに従事。著書に『MBB: 思いのマネジメント』(野中郁次郎名誉教授、一條和生教授との共著)、『ビジネスモデルイノベーション』(野中名譽教授との共著)など多数。

5つの特徴

- 特徴1 少人数で濃密に学べる実学MBA
- 特徴2 仕事を続けながらMBAが取得できる。JR品川駅直結のキャンパス
- 特徴3 経営に変革を起こす「イノベーターシップ」を習得できる
- 特徴4 独自のリベラルアーツ講座群。リーダーに必要な教養と人間性を磨ける
- 特徴5 卒業後も続く、濃密な受講生ネットワーク



田坂 広志 教授



宇佐美 洋 教授



紺野 登 教授



河野 龍太 教授

育て、次代を担うデータサイエンティストたち

ビジネスデータサイエンスコース

ビジネスの知はデータに宿る。ビジネス現場での課題・問題を知った人と組織こそ、データから知を引き出せる。今、求められるのは、ビジネスの最前線で活躍するビジネスパーソンがデータ活用力を身につけること。まさに、「ビジネス」データサイエンティストが求められています。



コース長・教授
今泉 忠
多摩大学経営情報学部・経営情報学研究科教授。日本分類学会会長。日本行動計量学会理事。日本学会会議連携委員。統計検定運営委員会委員。統計的データ解析、とくに多変量解析を適用できる諸問題について、理論的研究と実際の解決法の研究を進めてきた。不十分な情報のもとでのモデル構成や非線形構造、時間的変化構造の解析法などを扱っている。

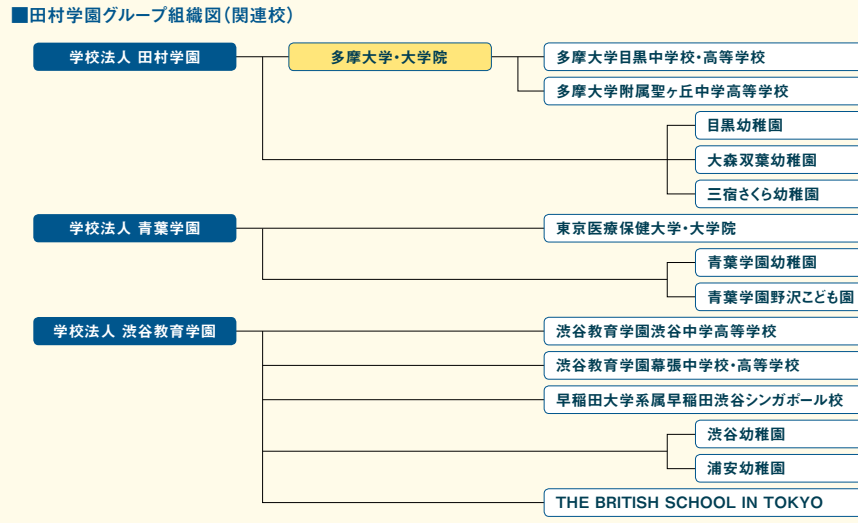
5つの特徴

- 特徴1 分析手法を単なる知識としては学ばない
- 特徴2 2年を待たずに成果を得る
- 特徴3 充実の講師陣によるビジネスデータサイエンス実践
- 特徴4 先端事例と現場で活躍中のデータサイエンティストに学ぶ
- 特徴5 ビジネスパーソンならではの学びをサポート



田村学園の概要図

田村学園は学園建学の精神「質実清楚・明朗進取・感謝奉仕」を礎とし、生徒、学生ひとり一人の豊かな個性を伸ばし、国際感覚ある、心豊かな人材の育成を目途としています。



データで見る多摩大学

平成28(2016)年5月1日現在

■在籍学生数

■経営情報学部 (人)

学年	事業構想学科 ※		経営情報学科		計	
	男	女	男	女	男	女
4	102	23	141	19	243	42
3	137	24	192	21	329	45
2	189	38	82	11	271	49
1	222	31	132	18	354	49
合計					1,197	185

※2014年度入学生までは、マネジメントデザイン学科、2015年度入学生以降は、事業構想学科

■グローバルスタディーズ学部 (人)

学年	グローバルスタディーズ学科		
	男	女	計
4	97	72	169
3	54	43	97
2	98	52	150
1	109	61	170
合計	358	228	586

■大学院 経営情報学研究科 (人)

課程	経営情報学専攻		
	男	女	計
修士	49	42	91
博士	2	0	2
合計	51	42	93

■収容定員

■経営情報学部

- 事業構想学科 642名
- 経営情報学科 642名

■グローバルスタディーズ学部

- グローバルスタディーズ学科 604名

■大学院 経営情報学研究科 経営情報学専攻

- 修士課程 120名
- 博士課程 30名

■キャンパス面積

■多摩キャンパス 30,538㎡

■湘南キャンパス 14,375㎡

■サークル数

■経営情報学部 18

■グローバルスタディーズ学部 19

■蔵書数

■多摩キャンパス 148,687冊
(和書:136,095冊 洋書:12,592冊)

■湘南キャンパス 33,966冊
(和書:24,038冊 洋書:9,928冊)

■体育会

■多摩キャンパス 2

■卒業生総数

■学部別卒業生総数

学部	1期生	2015年度	卒業生総数
経営情報学部	1992年度	2015年度	6,640名
グローバルスタディーズ学部	2010年度	2015年度	640名
大学院 修士課程	1994年度	2015年度	717名
大学院 博士課程	1994年度	2015年度	8名(他論文博士3名)

多摩大学研究開発機構

多摩大学研究開発機構は、社会との連携が不可欠となった複合的な研究教育環境に対応して、学内の研究活動の有機統合を図りつつ、学外との高度な共同研究・教育を実現し、産官学の研究交流、教育交流の成果を大きくあげることを目的としています。

多摩大学総合研究所 <http://www.tmuri.jp/> 所長 久恒啓一

情報社会学研究所 <http://www.ni.tama.ac.jp/> 所長 公文俊平

医療・介護ソリューション研究所 <http://www.tama-mii.com/> 所長 真野俊樹

ルール形成戦略研究所 <http://www.tama.ac.jp/research/ord/rule.html> 所長 國分俊史

■マネジメント体制

■多摩大学 組織責任者

学長	寺島 実郎
副学長・経営情報学部長	久恒 啓一
事業構想学科長	杉田 文章
経営情報学科長	大森 拓哉
グローバルスタディーズ学部長	ウィリアム シャング(安田 農一)
大学院 経営情報学研究科長	徳岡 晃一郎
学長室長	小林 英夫
アクティブ・ラーニング支援センター長	金 美德
地域活性化マネジメントセンター長	中庭 光彦
国際交流センター長	ウィリアム シャング(安田 農一)
“志”入試センター長	久恒 啓一
事務局長(兼多摩キャンパス事務長)	宮地 隆夫
湘南キャンパス事務長	清水 克己

■多摩大学研究開発機構 組織責任者

多摩大学研究開発機構長	久恒 啓一
多摩大学総合研究所長	久恒 啓一
多摩大学情報社会学研究所長	公文 俊平
医療・介護ソリューション研究所長	真野 俊樹
ルール形成戦略研究所	國分 俊史

多摩大学の経営母体である学校法人田村学園の最新の概要は以下のとおりです。

学校法人 田村学園 貸借対照表

[平成28年3月31日(平成27年度)]

(単位 百万円)			
科 目	前年度末	本年度末	増 減
資産の部			
固定資産	22,364	22,135	△229
有形固定資産	20,537	20,217	△320
土地	11,746	11,746	0
建物	7,653	7,392	△261
その他	1,138	1,079	△59
特定資産	1,692	1,792	100
第2号基本金引当特定資産	1,600	1,700	100
第3号基本金引当特定資産	92	92	0
その他の固定資産	135	126	△9
電話加入権	5	5	0
その他	130	121	△9
流動資産	4,614	5,024	410
現金預金	3,440	3,928	488
その他	1,174	1,096	△78
資産の部合計	26,978	27,159	181
負債の部			
固定負債	365	375	10
長期借入金	2	2	0
退職給与引当金	363	373	10
流動負債	1,312	1,081	△231
短期借入金	0	1	1
前受金	793	792	△1
その他	519	288	△231
負債の部合計	1,677	1,456	△221
純資産の部			
基本金	31,438	31,751	313
第1号基本金	29,349	29,562	213
第2号基本金	1,600	1,700	100
第3号基本金	92	92	0
第4号基本金	397	397	0
繰越収支差額	△6,137	△6,048	89
翌年度繰越収支差額	△6,137	△6,048	89
純資産の部合計	25,301	25,703	402
負債及び純資産の部合計	26,978	27,159	181

平成27年度 学校法人 田村学園 計算書類 抜粋

資金収支		教育活動収支	
(単位 百万円)		(単位 百万円)	
資金収入	3,633	教育活動収入	5,080
学生生徒等納付金収入	72	教育活動収入合計	5,080
手数料収入	52	雑収入	48
寄付金収入	1,151	教育研究経費	1,316
補助金収入	200	管理経費	495
資産売却収入	157	その他	27
付随事業収入	22	教育活動支出合計	4,721
受取利息・配当金収入	48	教育活動収支差額	359
その他	43	教育活動外収入	31
前年度繰越支払資金	3,440	教育活動外支出	0
合計	8,818	教育活動外収支差額	31
資金支出	2,874	経常収支差額	390
人件費支出	915	特別収入	22
教育研究経費支出	461	特別支出	10
管理経費支出	0	特別収支差額	12
借入金等利息支出	640	基本金組入前当年度収支差額	402
その他		基本金組入額	△313
		当年度収支差額	89
		前年度繰越収支差額	△6,137
		基本金取崩額	0
		翌年度繰越収支差額	△6,048
		(参考)	
		事業活動収入 合計	5,132
		事業活動支出 合計	4,730

■その他のデータについて

多摩大学およびその経営母体である学校法人田村学園は、私立学校として積極的に情報開示をしています。その他のデータにつきましては、ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。
<http://www.tama.ac.jp/guide/open/>

■アクセスマップ

【電車利用案内】

■多摩キャンパス

- 京王線 新宿 → 聖蹟桜ヶ丘 …【特急】25分
- 京王線 新宿 → 永山 …【特急・急行】25分
- 小田急線 町田 → 永山 …【急行】17分
- 小田急線 表参道 → 永山 …【多摩急行・東京外千代田線直通】36分

※所要時間は最短時間で。待ち時間、乗り換え時間は含まれません。
※日時・交通状況などにより所要時間が変わりますので、必ず最新情報をご確認ください。

■湘南キャンパス

- 小田急江ノ島線 新宿 → 湘南台 … 50分
- 町田 → 湘南台 … 19分
- 横浜線・小田急江ノ島線 八王子 → 湘南台 … 43分
- 相模鉄道いずみ野線 横浜 → 湘南台 … 31分



Information

公式Facebookページ
多摩大学では、公式Facebook(フェイスブック)ページを運営しています。さまざまな情報発信をしておりますので、どうぞご覧ください。
<https://www.facebook.com/tamadaigaku>

メールマガジン「現代の志塾」…多摩大通信
多摩大学では、「現代の志塾」…多摩大通信として多摩大学からのメッセージを不定期のメールマガジンとして配信しています。ご希望の方は、以下のページからお名前とメールアドレスをご登録ください。
<http://www.tama.ac.jp/info/mm.html>